

DXPの「どうするDX」《概要版》

専門サービス業のDX 戦略

デジタル技術と生成AIが引き起こす構造的転換

DAY9

2026年2月

株式会社DXパートナーズ

2026年2月9日



本レポートの構成

01

影響調査

デジタル・生成AIがもたらした構造的衝撃を分析

02

技術調査

2026年初頭の最新技術動向を解説

03

ロールモデル分析

先駆的企業3社の戦略を精査

04

将来予測

2026年以降の業界変革を展望

05

戦略的提言

経営層が今すぐ実行すべき施策

3つの構造的衝撃

デジタルが引き起こした変革

受託試験分析サービスの事業基盤が根本から書き換えられています。

置換

物理的・人的リソースの
完全置換

活用

ビジネスプロセスの高速
化

前提

ルールチェンジの発生

自律型ラボの実用化

HighRes BiosolutionsとNVIDIAの提携により、科学的意図を自然言語で理解し、ワークフローを自律的に構築・実行する「AI駆動型自律ラボ」が登場しました。



意図の理解

自然言語で科学的意図を解釈



自律実行

最適な実験手順を自動生成



自己修復

エラーから自律的に復旧

Lab-as-a-Service (LaaS)への転換

導入前

単発の取引と一回配達モデル



導入後

継続的なプラットフォーム型共創エコシステム

新たなビジネスモデル

クラウドとロボティクスを統合したプラットフォーム上で、試験・分析・シミュレーションを継続提供します。

- データ蓄積による価値の自己増幅
- 高いスイッチングコスト
- ノンリニアな成長の実現

従来の単発取引から、継続的な共創の場へと業界ルールが根本から変化しています。

2026年の革新的技術



ISO/IEC 42119シリーズ

AIシステムの安全性・公平性を
検証する国際標準規格が策定
されました。



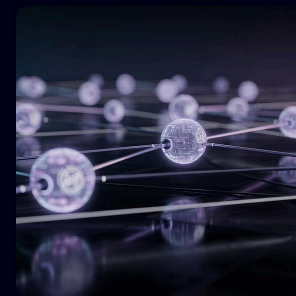
フィジカルAI

現実世界の物理現象を理解
し、自律的に動くAIが本格化し
ています。



EU AI Omnibus

規制の簡素化により、AI実装の
障壁が低下しました。



エージェント型AI

目標を与えれば自律的に多ス
テップのタスクを完結させるAI
が実用化されました。

先駆的企業の戦略



MI-6株式会社(日本)

「miHub®」プラットフォームで研究者のドメイン知識とAIを融合。実験計画を最適化し、顧客のR&D資産をデジタル化しています。



Citrine Informatics(米国)

生成AI搭載の「Citrine Catalyst」で数百万通りのシミュレーションを実行。物理実験の前にデジタルR&Dを実現しています。



Polaron(英国)

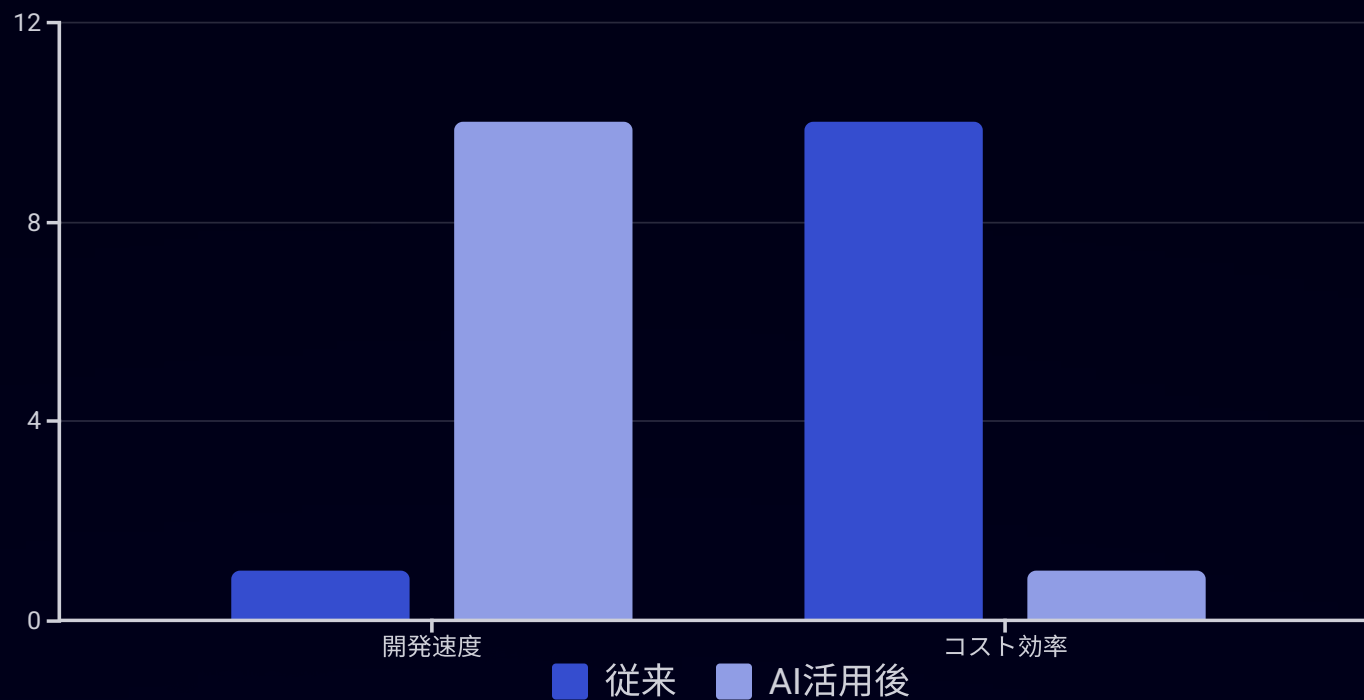
2D顕微鏡画像から3D構造をAIで再構築。高価な物理的設備をソフトウェアが置換しています。

2026年以降の業界変革

- 1** 承認者への転換
専門家はAIが提示した解に対してYes/Noを判断するだけの役割へ
- 2** 閉ループ型ラボ
仮説構築から測定までをAIが自律的に回すラボが標準化
- 3** 無選択型意思決定
顧客のAIエージェントが信頼できる試験機関を自動選定



R&D速度とコストの劇的改善



閉ループ型自律ラボの威力

「仮説構築→合成→測定→解析→次の仮説」というサイクルをAIが人間を介さず自律的に回すことで、R&Dの速度は**従来**の**10倍**、コストは**10分の1**へと劇的に改善されます。

経営層が今すぐ実行すべき5つの施策



Core(知能)売りへの脱皮

専門知見をAI活用可能な学習済みモデルとして再定義



AI-Readyデータの構築

過去の試験データを国際基準に準拠した形式で整備



フィジカルAIへの投資

自律復旧する次世代ロボットの導入を加速



LaaSプラットフォーム構築

顧客価値共創の場としてのクラウド基盤を創出



承認者への組織変革

AIエージェントを使いこなす人材へのリスクリング

📌 **総括:** 2026年は、ルールチェンジを主導した企業と従来の延長線上に留まった企業の二極化が決定づけられる年となります。デジタルを前提とした変革への決断が、今まさに求められています。